



だより



R6.4.30 Vol.4

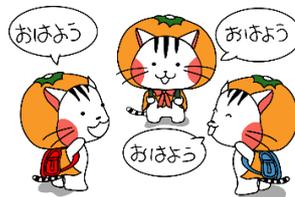
がんばれ！6年生！

これまでにいろいろな学校で働いてきました。それぞれの学校には、それぞれの雰囲気があります。真穴小に来て一か月。素直で素朴な子供たちの雰囲気がとても素敵です。学校の雰囲気は一朝一夕で作られるものではありません。学校の歴史の中で、先輩から後輩へ、そしてそのまた後輩へと、有形無形のものが伝えられ、作られていきます。そのキーパーソンとなるのはやはり最高学年！6年生です。

例えば、登校班の様子を見てみると、班長の挨拶がいいグループはやはり他の学年の挨拶も元気です。

「元気に挨拶しましょう。」という教師の指導は当然ありますが、先輩(6年生)の姿をみて後輩(下学年)は「挨拶とはこういうものなんだ。」と学んでいきます。そして、それが学校の雰囲気になっていきます。

6年生のだれに声を掛けても、気持ちのよい応対ができます。そのいい雰囲気をしっかり後輩に伝え、元気で楽しい真穴小を作っていってほしいです。



騷

2週間くらい前だったでしょうか？早めに帰る1年生と一緒に下校していた時期です。お迎えに出られているお母さんを見つけて、子供たちの顔は一気にほころびます。ある子に、私が「じゃあ、さようなら！また明日ね！」と声をかけると「うん！ばいばい！」と手を振っていました。すかさずお母さんが「もう『ばいばい』やないんよ。『さようなら』って言うんよ！」と言うと、同じように手を振りながら「さようなら。か、可愛いすぎる…笑」

こうやって子供は言葉や礼儀を学んでいきます。叱るわけではなく、笑顔で言葉を正しているお母さんの様子にも感心しました。小学校入学は、子供にとっても親にとっても大きな節目の一つだと思います。節目を良い機会と捉え、「小学生になったんだよ」と声をかけたり、態度で示したりすることで、子供もその節目を意識することでしょう。

騷というと、何か古い感じがあるかもしれませんが、そんなことはありません。騷の大切さは最近の脳科学の研究でも明らかにされています。学校でも家庭でも笑顔で分かりやすく騷をしていきたいですね。

四方山話真穴 ver. 其の四(春祭りに思う)

先々週の土曜日に神輿パレードで主に真網代地区を子供たちが練り歩きました。一生懸命、声を出す姿、とてもよかったです。また出発前には6年生が中心となって、ときの声を上げ、全体を鼓舞していました。前段にも書きましたが、こうした6年生の雰囲気が学校全体を盛り上げます。子供たちと一緒に回っていると、保護者の方ももちろんですが、ご高齢の方も一緒に手をたたき、パレードを盛り上げてくれる様子に何度も出会いました。愛しむような目で子供たちを応援してくれている姿。そんな地域の方々に見守られている真穴っ子は幸せだなあと感じました。

翌日は、本祭り。相撲甚句や唐獅子等、出番がある子供たちも、たくさんいました。生憎の雨でしたが、子供たちの頑張る姿にこれまた感動！地域の方と一緒に祭りを楽しみ、盛り上げる姿が印象的でした。

この取組が真穴を愛する子供たちを育てているのだなあと感じました。祭りの前日、道路に万国旗を張り渡している地域の方の姿がありました。私が子供の頃、秋祭りの時期になると、同じように道路に万国旗や「みなと祭」とかいた三角の旗が張り渡されていました。その光景を見て、『お祭りだ！』と心を躍らせました。今もはっきりと記憶に残っています。そして今、真網代地区のこの光景は間違いなく子供たちの記憶に残り続けるでしょう。

そして自分たちが大人になったとき、地域の子供たちと共に祭りを地区を盛り上げる。そんな循環が脈々と続いているように思います。ここ数年、メディアのいたるところでSDGsという文字を目にします。素敵な取組だと思いますが、中には絵にかいた餅のような項目も散見されます。長い間、受け継がれてきている春祭り。これこそが持続可能な社会づくりの一つの形ではないでしょうか？祭りに携わった皆様、本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。